

**特別認定（二）（三）（四）**（2単位）

担当者氏名 渡邊 研一、白井 滋、塩本 明弘、小林 万里、千葉 晋、瀬川 進、松原 創

◆学習・教育目標（到達目標を記載）

学術論文作成法（一）、（二）のいずれか又は両方の講義を経て、指導教員の指導の下に研究成果を英文の学術論文にまとめ、審査付き国内・国外学会の学術誌へ主たる論文（単著または筆頭著書）を投稿し、掲載された場合に、専攻内会議に当該論文を提出、論文作成の経過、要点の説明後、妥当性を審査する。最終的に研究科委員会の審議を経て単位として認める。下記内容の授業を受けながら論文を作成し、論文の完成と投稿、受理にいたる過程を経験することを到達目標とする。

◆取り扱う領域（キーワードで記載） ご自身のキーワードを記入してください

|       |       |      |       |
|-------|-------|------|-------|
| 生物多様性 | 環境    | 魚病   | 海生哺乳類 |
| 生態系保全 | 水圏生態学 | 種苗生産 |       |

◆授業の進行等について

|   | テ ー マ   | 内 容  | 準備学習(予習復習)等の内容と分量   |
|---|---|--|---|
| 1 | 論文内容決定（第1週）                                     | ・指導教員との議論から論文内容を立案する   | ◎最新の投稿規定を取り寄せること。<br>◎研究結果をまとめておく。<br>◎該当する分野の最新の論文を毎日チェックし、EndNoteを使って論文を管理すると便利である。<br>◎参考論文は番号をつけてファイリングしておこう。 |
| 2 | 要約の作製（第2週）                                      | ・科学的な文章を指導教員の添削を通して学ぶ。   |   |
| 3 | 緒言の作製（第3-4週）                                    | ・論文の主題に沿って、研究の背景と論点を提示する。  |   |
| 4 | 図表作製（第5-6週）                                     | ・結果のまとめ方、統計処理や作図法を学ぶ。  |   |
| 5 | 結果（第7-9週）                                       | ・論理的な文章作成を学ぶ。文章は短く明確に書く。   |   |
| 6 | 考察（第10-12週）                                     | ・適宜文献を引用しながら、具体的に結果を検証する論理的な文章作成を学ぶ。                                     |   |
| 7 | 参考文献と調整（第13）                                    | ・論文のフォーマットを守ることが最低限のマナー。   |   |
| 8 | 投稿・査読者への対応（第14-15週）<br>(第1-15週は、履修者の指導教員が担当する。) | ・査読者とのやりとりは特に重要である。慎重にコメントを読み、謙虚に論文を見直し、最大の努力をして査読者への返事を書く。必要ならば実験を追加する。 |   |

◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）  
書名／著者／発行所（発行年）

◆授業をより良く理解するのに便利な参考書・資料等  
書名／著者／発行所（発行年）

科学者のための英文手紙の書き方/黒木登志夫他/朝倉書店（1994）

◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト）

論文により評価する

◆オフィスアワー

昼休みに各指導教員の居室を訪ね、不在の場合は居室の掲示で確認する。メモを残す、メールで質問するなどの対応をしてください。

◆その他受講上の注意事項